

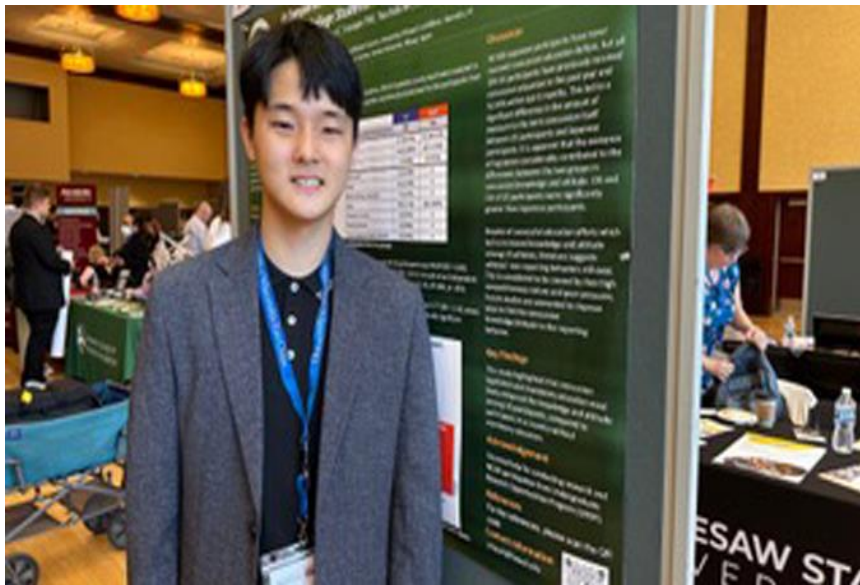
2022年夏、仙台大学短期研修のために来校した

元ハワイ大学教育学部マノア校のジイン・パーク氏に関する記事



UNIVERSITY of HAWAI'I® NEWS

2023年春、学部生の脳震盪研究が全米で注目される



ジイン・パーク氏は、2023年4月にウィスコンシン大学オークレア校で開催された National Conference on Undergraduate Research (NCUR) 学部研究評議会、米国における脳震盪の法的規制の有効性に関する学部研究（日本と米国との比較）を発表した。

日本には脳震盪に関する法的規制がないため、脳震盪に対する知識や信条を日米で比較した研究について、滞在中、現地テレビ局から当時ハワイ大学マノア校の学部生だった彼にインタビューをした。キネシオロジー・リハビリテーション科学科（KRS）の白幡恭子助教授（Assistant Professor）の指導のもとで行われたジイン・パーク氏の研究では、米国の参加者は日本の参加者に比べて脳震盪に対する高邁な知識・視点に立っており、脳震盪に対する法的規制が安全にスポーツに参加するためには重要であることが示された。

教育学部の2023年春のKRS卒業生であるジイン・パーク氏は、UH Mānoaの学部研究機会プログラム Undergraduate Research Opportunities Program (UROP) から贈呈された資金で支援され

た。

「学部研究評議会 (NCUR) で自分の研究について発表し、他の参加者とディスカッションすることで、自分の研究に対する理解が深まり、研究に対する見方が広がりました。」とジイン・パーク氏は述べた。「さらに、プレゼンテーションの経験をより興味深いものにしたのは、ウィスコンシン州オークレアのテレビ局 WQOW からインタビューを受ける機会を与えられたことです。この経験は、理学療法士の学位を目指す私の学問の旅の確固たる礎となり、研究への情熱にさらに火をつけてくれました。」



仙台大学で、四人並びで微笑む松本仙台大学副学長、高橋仙台大学学長、ジイン・パーク氏、白幡助教授

ジイン・パーク氏は UROP のプロジェクト資金も獲得した結果、2022 年夏にデータ収集のために仙台大学にて短期研修が実現できた。白幡助教授は仙台大学の教員であり、現在は両大学間のコーディネーターを務めている。仙台大学は、北日本で唯一の体育・スポーツ・健康科学の専門大学として、ジイン・パーク氏の脳震盪研究を歓迎した。この研究活動は、仙台大学と KRS の 20 年以上にわたる関係をさらに強化するものである。

「今回の国際的な研究経験は、極めて特別なものでした。」とジイン・パーク氏は述べた。「研究のプロセス・手順は刺激的で、仙台大学の学生との交流は授業を通してだけでは得られないものでした。」

「ジイン・パーク氏は 1 年以上にわたってこのプロジェクトを完成させるために懸命に働き、研究者としての成功を目の当たりにすることができ、本当に充実していた。」「両校の長期にわたる友好関係が、彼のこのような大きな成功を後押ししたのだと思います。私は、今後も、ジイン・パーク氏のような学部生をもっと指導し、学生にユニークな国際的な研究経験を積ませたいと思います。」と白幡助教授)は述べた。

ジイン・パーク氏は、ノースウェスタン大学の理学療法博士課程に入学し、教授になることを目指している。



仙台大学朴澤理事長（左）と握手を交わすジン・パーク氏

<UROP の資金調達が可能>

学部研究機会プログラム（UROP）は、教員の指導を受けた学部生の研究・創作プロジェクトやプレゼンテーションを支援するため、毎年 50 万ドル以上の奨学金を授与している。ほとんどの奨学金は学生のプロジェクトを支援するために使われ、UROP は学生に、地方、全国そして国際的な会議、会場、コンテストなどで作品を発表するための支援を含む、プレゼンテーション資金を利用することも勧めている。

UROP のアシスタントディレクターである Seung Yang 氏は、「UROP ではジン・パーク氏を非常に誇りに思うと同時に、白幡助教授の指導に感謝している」と述べた。「自分の研究成果を学外に発信することは、教員の指導を受けた研究や創作活動を行う上で不可欠な要素です。ジン・パーク氏がハワイ大学マノア校の学部で研究を行う際に、UROP プロジェクトに応募して資金を得ただけでなく、UROP プレゼンテーションの資金も得て、全米の聴衆と研究を共有できたことは、私たちにとって喜ばしいことです。」と述べた。

Yang 氏は、「UROP は、UH マノアのすべての大学生が、UH マノア校での学業経験を高めるために、UROP の内外で学部生が研究の機会に参加することを奨励しています。」と付け加えた。